

# 白石小に7人の外国青年

## ワールドワイドに楽しく交流

9月26日、白石小学校（吉田雄二校長）に「地球体験キャラバン隊」が訪れ、同校の体育館で子供たちが海外の青年たちとクイズをしたりして交流を深めました。

この地球体験キャラバン隊は県が国際交流促進のために行っているもので、県内の病院や企業、自治体に技術研修に来て



▲片言の言葉でも、気持ちは通じます

いる外国青年らが、主に公民館や学校などを要請に応じてボランティアで訪問、地域住民や子供たちとの交流活動を行っています。白石小学校では、総合的学習の時間を利用して地球環境や人種について深く考える機会をと、このキャラバン隊を招きました。

今回同小学校を訪れたのは、インドネシアや中国、ラオスなどの国の青年7名と青年海外協力隊OB、それに県の職員合わせて14人。

交流会は、外国青年たちの自己紹介に始まり、彼らの国の言葉にちなんだクイズや青年たちと直接会話をグループ活動などですすめられました。グループ活動では、はじめ子供たちは言葉の違

## 地域の人材活かし 草野小でパソコン教室

森 健治さん(上飯樋)が特別非常勤講師に



▲子供たちにパソコン操作を指導する森さん

う青年たちを前に緊張したようでしたが、次第にうちとけ、青年たちの国のことや好きな食べ物などについて質問し、青年たちが話す遠い異国の文化に目を輝かせながら交流を深めていました。

9月下旬から10月上旬にかけて草野小学校（今野哲生校長）で行われたパソコンの授業で、森健治さんが特別非常勤講師として、子供たちにパソコンの操作を教えました。

これは、一人の先生が全学年のパソコンの授業を行うのは難しいことから、同校で地域の人材を活用しようとしたもので、村の推薦を受け森さんが講師に選ばれたものです。

ボード操作の学習ソフトを使って文字の入力を練習した後、音楽祭の案内状づくりに挑戦しました。子供たちは、慣れない手つきながらも一つひとつ文字を入力し、案内状づくりに取り組んでいました。

この教室は10月末まで行われる予定で、他の学年の授業でも森さんが講師として指導することになっています。

このうち、9月22日に行われた1年生の教室では、森さんは用意した動物の画像を使ってパソコンの基礎を指導。子供たちは画面に表示されたかわいらしい動物の絵にマウスを使って色を塗ったりしながら初歩的な操作を学んでいました。

また、25日の4年生の教室では、ワープロソフトの使い方などを指導。はじめにキー